

# 防本ジャーナル

THE BOSUI JOURNAL

ROOFING/SIDING/INSULATION/RENEWAL

# 11

2018

No.564

特集

◆ ◆ JASS8新設に向かうポリマーセメント系塗膜防水  
放射性廃棄物関連施設の遮水技術と汚染水対策



# 斜壁部笠木のシート防水末端部からの漏水

鈴木 哲夫

コンクリートや鉄骨構造などの陸屋根防水は、主に平場とパラベットの防水立上りおよび笠木で構成され、特に末端部の止水納めは重要である。パラベットの外側は、外壁と同一垂直面の場合や斜めになった化粧斜壁庇もあれば、斜線制限で斜めの壁がそのままパラベットになっている場合もある。

写真1は、化粧庇を塩ビ系シート防水に更新して10年が経過した斜壁状の末端部である。防水の更新後、これまでに漏水騒ぎは一切なかったのだが、このところの強風を伴うゲリラ豪雨の影響下で、漏水が発生した。

点検してもシート面に不具合は見られず、笠木の末端鋼板回りに強風の影響と思われる浮上り破損が認められたため、補修を行った(写真1矢印)が、漏水は止まらない。塩ビ系シート防水などのシート防水末端は、笠木の外側出隅にL型の接着用塩ビ鋼板固定プレート(末端鋼板)が取り付けられ、シート防水が溶着されるのだが、末端鋼板の納め方に盲点があることがわかった。

末端鋼板の斜壁状および垂直面の外側については、メーカー参考図には図1のように壁とピッタリ納めるとする図示があるものの、実際には躯体のわずかな暴れや仕上げ材の凸凹によって、末端鋼板の下端部に隙間ができる。このような隙間ができた部分は、直角納めの場合には雨水の侵入に抵抗できたとしても、図2のように斜壁状になったパラベットをアゴなしで笠木まで巻き込んだ納まりになると、強風を伴う降雨の際に、吹き上げる風によって末端鋼板の隙間から雨水がシート防水の裏側に侵入することがわかった。末端鋼板裏への雨水の侵入がたびたび生じると、鋼板が錆び、アンカーも錆びて留付け強度を失い、末端が外れるという二次的な被害をもたらす。

パラベット巻上げ納まりとする場合の防水は、端末納めの出来具合に依存するため、写真2のように末端鋼板の下端部に隙間ができると雨水の侵入原因になる。雨水侵入を回避するには、シーリングなどで下端部からの雨水吹込み防護処理を施す必要がある。

ただし、紫外線などの劣化が強い部分でもあるため、シーリングを施す場合は、鋼板と壁面の面内に打ち込むことが好ましい。



写真1 塩ビ系シート防水により末端部を先端に設けた化粧斜壁庇の端末破損

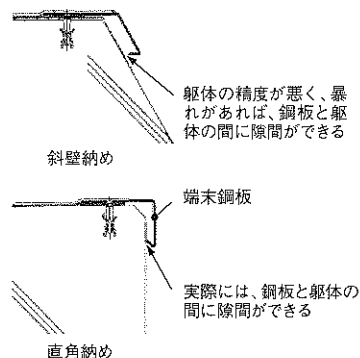


図1 末端鋼板と壁面の納め図

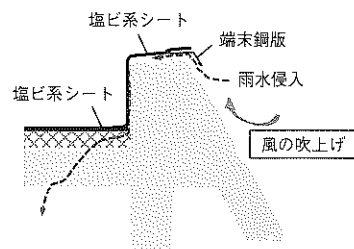


図2 斜壁状パラベット末端部の漏水ルート



写真2 化粧斜壁庇にシーリング施工中の末端鋼板の隙間

(有)鈴木哲夫設計事務所 代表取締役